



学校教育目標：心豊かな子 たくましい子 自ら学ぶ子

素直な、しなやかな心を

校長 高野 英俊

今年の5月は、例年に比べて気温が高かったり低かったりと不安定な感じがしましたが、花壇やフェンス沿いのアジサイは、青紫色の花を開き始めました。季節は確実に日々移ろってきています。先日の運動会は天候に恵まれて多くの保護者・地域の皆様にお越しいただき、無事に実施できました。子どもたちは、みんな精一杯自分の力を発揮していたと思います。温かい御声援が運動場に満ち、学校と地域の一体化を感じました。御協力ありがとうございました。

ところで、5月下旬の朝、1年生昇降口前で女の子に声をかけられました。「校長先生、見て見て！わたしがまいたアサガオのたねから芽がでてきたんだよ！！」また別の男の子は「ぼくのアサガオの芽、昨日より葉っぱが大きくなったんだよ。」とニコニコしながら自分の植木鉢を指差して見せてくれました。

本校の1年生は、全員一人一鉢でアサガオを育てています。毎朝、みんな嬉しそうに水をあげているのです。2ミリほどの小さな種から何倍もの大きさの芽や双葉が出てくるのが1年生にとって、とても不思議なものなのでしょう。この子たちは、後でつるが伸び、美しい花が開花したときにどんな感想をもつのかなと思いつつ、子どもらしい素直な感動を抱く子がいることをうれしく思いました。また、自分の植木鉢で、自分で種をまき、自分で水やりをして、自分でよく観察すること、つまり自分の力で育てることへの喜びを感じているのでしょう。自分で種をまいているからこそ種の小ささを実感し、関心が持続して、おのずと観察も細やかになり、発芽や成長の喜びとともに様々な発見があるのです。テレビやパソコン、本などでは味わうことができません。このような実感を伴った発見や感動は、子どもの豊かな感性や知的好奇心を育て、学習意欲を高めます。そして、不思議に大人になっても、この感動は決して忘れないものなのです。いつまでもありありと記憶に残り、その体験の様子とともに、幼い頃の素直な、しなやかな心を思い出せるのです。

6月は梅雨の季節ですが、鮮やかな青葉に囲まれ、木々や草花が来る真夏への準備をしているかのような自然の勢いを感じる月です。子どもたちの心を豊かに育てるのにも適した時期があり、素直な、しなやかな心をもつ小学校時代が正にその時です。この時期を逃さず、子ども一人ひとりの感じとったことを大切に、共に喜び、驚き、子どもたちの豊かな心を育てるべく、全職員で力を合わせ、指導に力を注げるよう全力で支援してまいります。

これからも常に、学校、家庭、地域の連携を大切に、子どもたち一人ひとりをよく見て、良さを伸ばしていく教育活動を進めてまいります。今後とも、原山小学校への温かい御理解と御支援をどうぞよろしく願いいたします。

